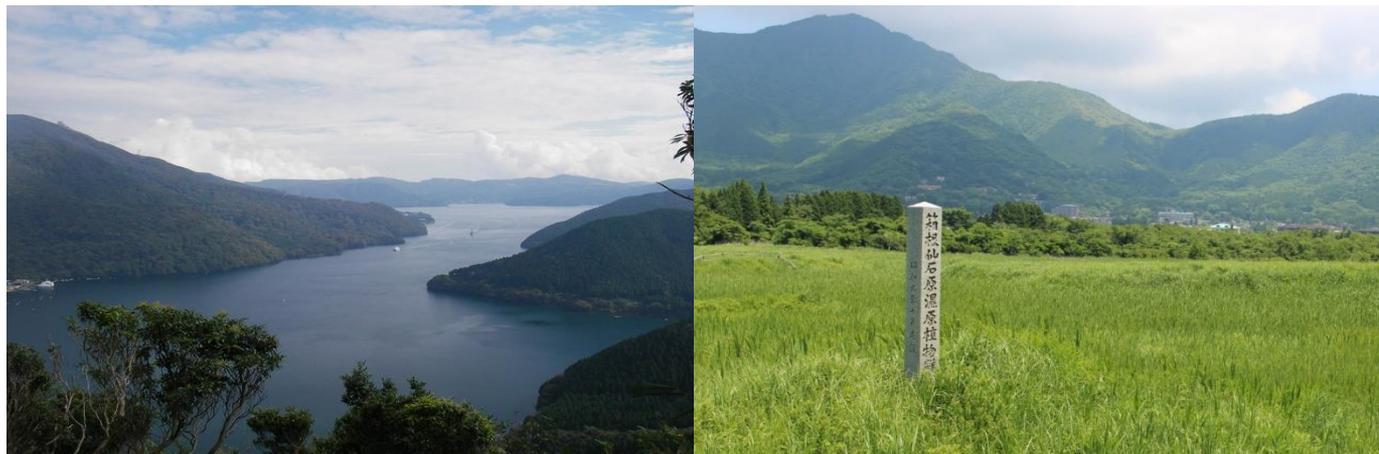
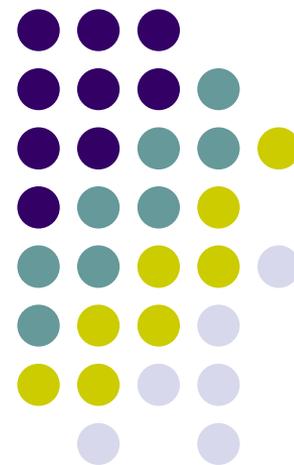


富士箱根伊豆国立公園(箱根地域) 公園計画の変更(一部変更)及び 生態系維持回復事業計画の策定

生態系維持回復計画の追加



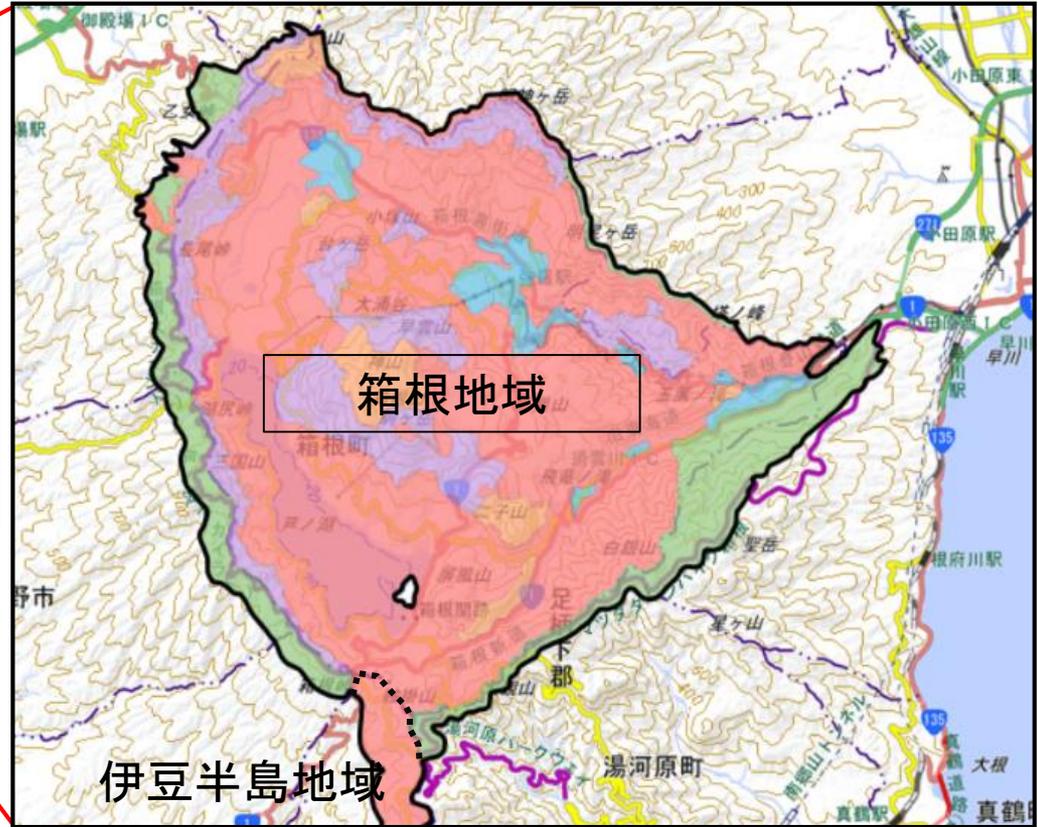
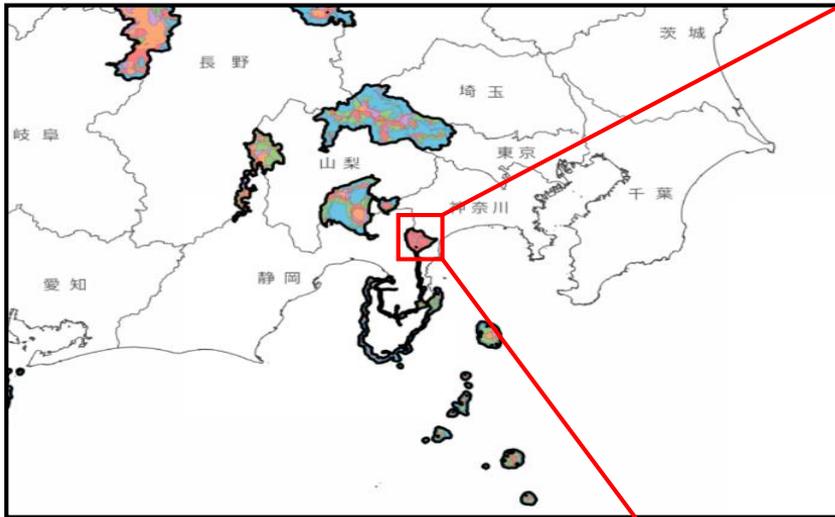
箱根カルデラ内の芦ノ湖(火口原湖)と仙石原湿原(火口原)



富士箱根伊豆国立公園(箱根地域)の概要



- 指定 昭和11年2月1日
- 面積 陸域:11,166ha



- 新旧2つの外輪山、中央火口丘、火口原湖、火口原からなる典型的な複式火山であり、各種の火山地形が見られる。

富士箱根伊豆国立公園(箱根地域)の概要



- ブナ等の自然林(標高800m以上)
- 富士火山帯固有のハコネコメツツジ、マメザクラ、サンショウバラ等
- 天然記念物 仙石原湿原
 - ・神奈川県唯一の湿原
 - ・希少植物、昆虫の生育・生息地
 - ・半自然草地(山焼き、草刈り)



マメザクラ



半自然草地である仙石原湿原

生態系維持回復計画の追加



公園計画変更の目的とポイント

ニホンジカによる被害が本格化する前に、予防的な取組みを実施し、影響を低減し、生態系を維持・回復する

箱根地域のニホンジカの増加



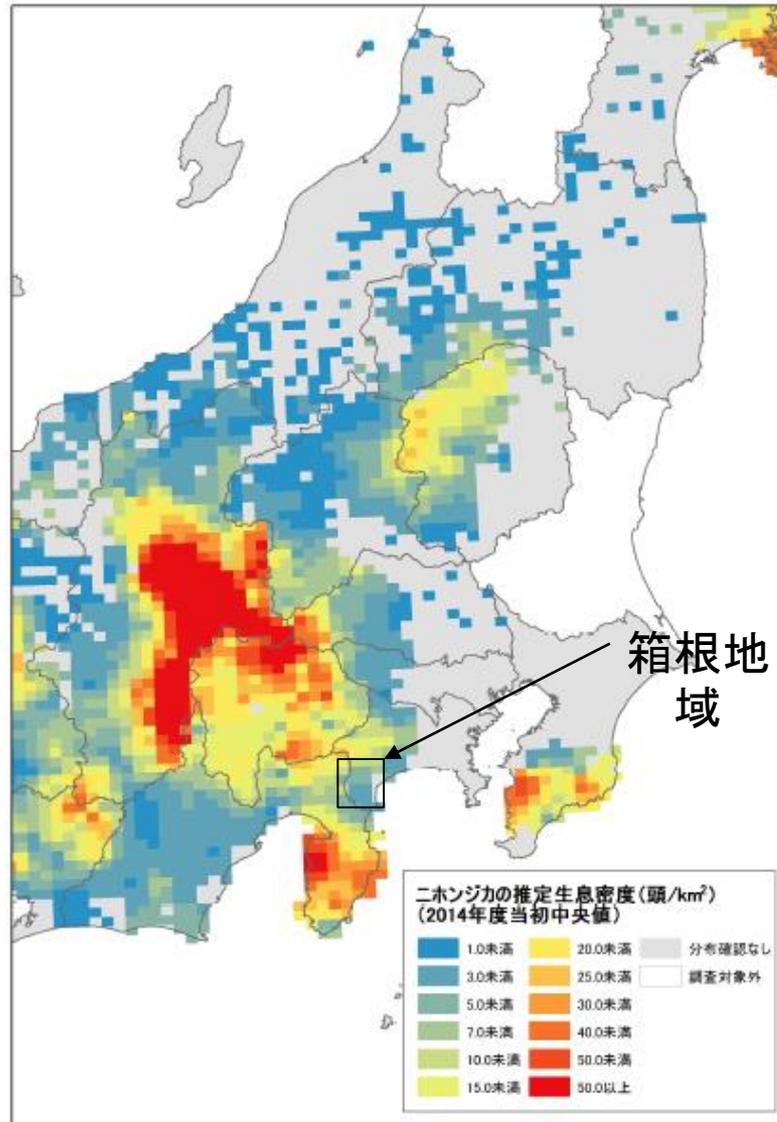
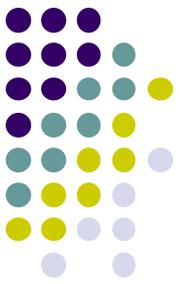
- 過去の強い捕獲圧により、100年以上にわたってシカが生息していなかったと考えられる。
- 1980年代から目撃が目立つようになり、平成25年には、仙石原湿原でも活動していることが判明。
- 富士山・丹沢及び伊豆半島両地域由来であることが示されている。
(DNA分析)



仙石原湿原内の自動撮影
カメラに写ったオスジカ



箱根地域における推定生息密度



ニホンジカの密度分布図(関東地方)

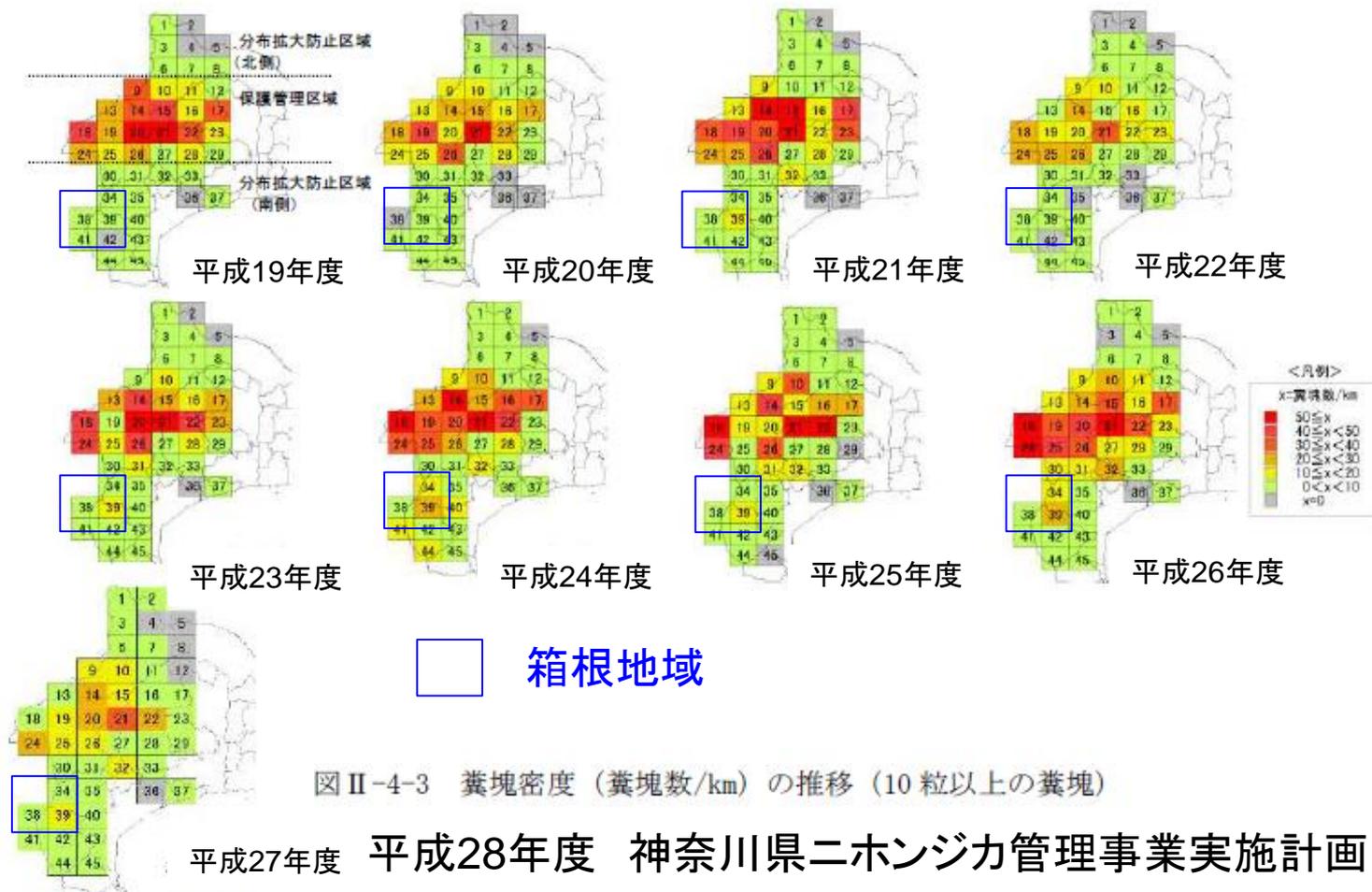
2014年度当初:中央値

環境省自然環境局鳥獣保護管理室作成
ニホンジカ密度分布図(2014年度)

<http://www.env.go.jp/press/101522.html>

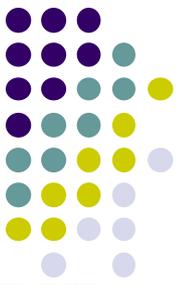
箱根地域の生息密度
は周辺の山域に比べて
低い

箱根地域における推定生息密度



周辺地域での捕獲が進む一方、箱根地域では、密度の増加がみられる

今後、箱根地域において懸念されるニホンジカの影響



- 踏み荒らし・採食圧の高まり
- 仙石原湿原をはじめとした貴重な希少湿原植物の食害
- 農林業被害の拡大



希少種への影響(ハコネコマツツジ)



踏み跡



食痕



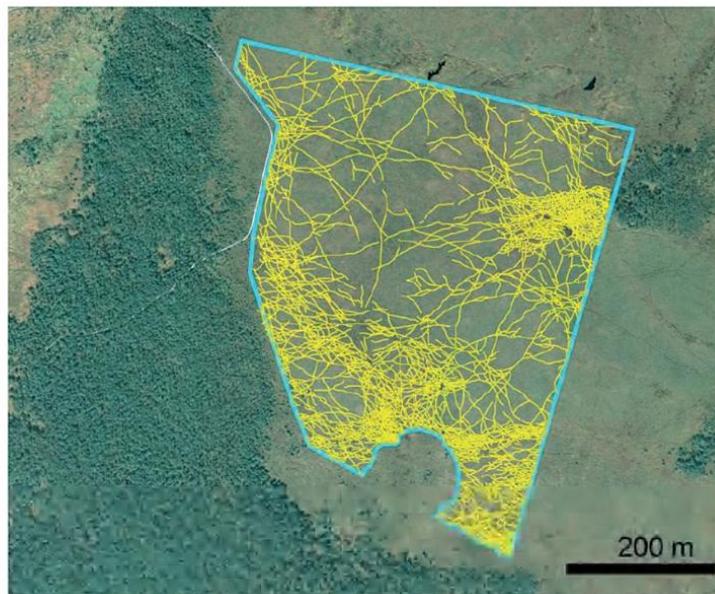
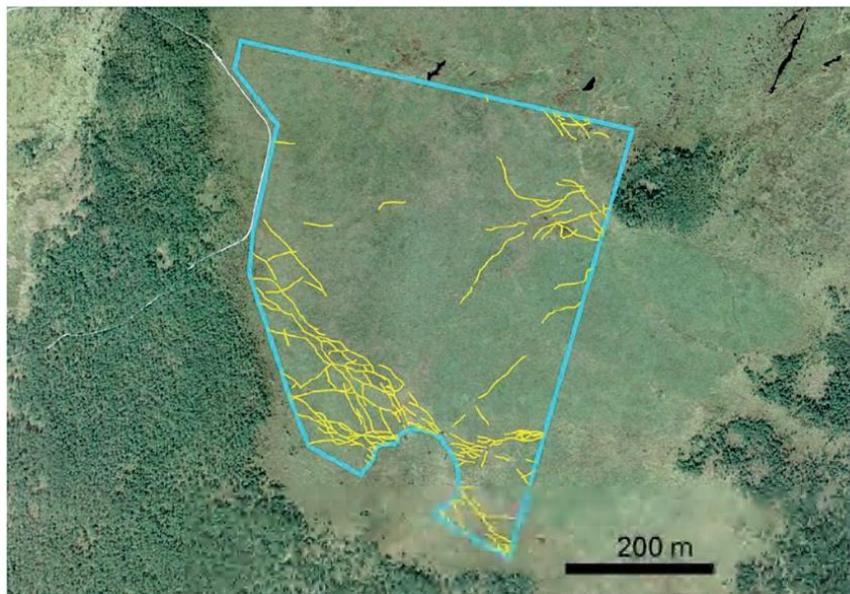
樹皮はぎ被害

湿原におけるシカの生態系影響の例 (釧路湿原国立公園)



2004

2010



温根内湿原の空中写真判読によるシカ道および裸地の時系列変化

村松・富士田(2015)植生学会誌 32: 1-15より

- 踏圧による湿原の裸地化
- 植生の変化



箱根地域生態系維持回復事業計画の策定

- **共同策定省庁** 農林水産省、環境省

- **事業の期間**

平成29年10月2日(予定)～目標が達成されるまで

- **事業の目標**

- 平成29年度と比較して植生劣化が起きない程度にシカの密度を維持する
- 生物多様性の保全(あるべき生態系の維持、希少植物の地域絶滅防止)
- 観光業及び農林業への影響を最小限にすることを目指す
- 仙石原湿原におけるシカの影響の完全排除

※現状を把握したうえで、具体的な数値目標を設定する

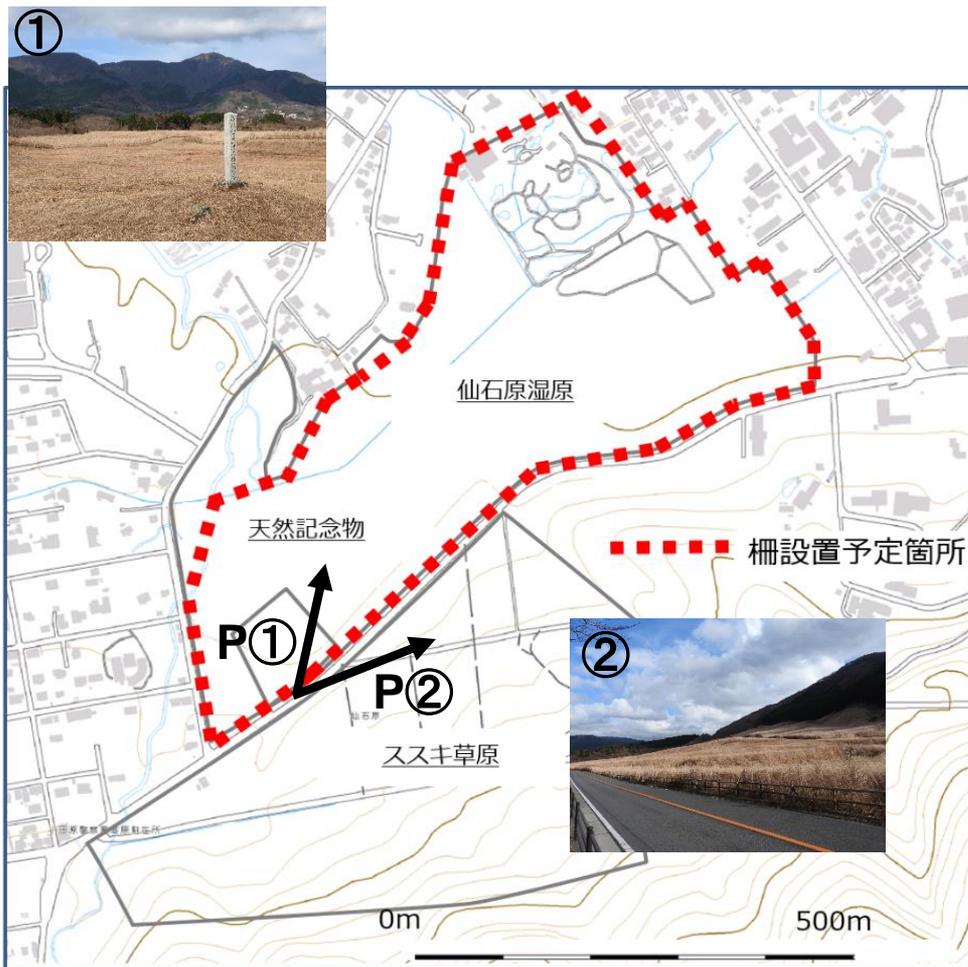
- **事業の区域** 富士箱根伊豆国立公園箱根地域全域

生態系維持回復事業の内容



項目	主な実施内容(予定) ※赤字:着手済み、青字:今後着手
モニタリング 〔6-(1)-①~④〕	<ul style="list-style-type: none">◆ 植生調査等により外来植物を含め植生の経年変化を把握◆ 糞粒調査、自動撮影カメラ、DNA解析、発信機等により、シカの生息数、行動特性等を把握◆ 対策効果の検証
シカの防除 〔6-(2)-①〕	<ul style="list-style-type: none">◆ 銃器、くくりわな、囲いわな等による捕獲及び適切な手法の検討◆ 試験柵の設置(10m×10m 5箇所)◆ 植生防護柵の設置
外来植物の防除 〔6-(2)-②〕	<ul style="list-style-type: none">◆ 除去◆ 種子除去マットの設置
生息・生育環境の維持・改善 〔6-(3)〕	<ul style="list-style-type: none">◆ モニタリング結果を踏まえて実施

植生保護柵の設置予定、試験柵、自動撮影カメラの設置状況



仙石原湿原内の自動撮影カメラによるモニタリング



試験柵(10m×10m)の設置(仙石原)

仙石原湿原植生保護柵設置予定図(全長約2.5km)

生態系維持回復事業の内容(つづき)



項目	主な実施内容(予定) ※赤字:着手済み、青字:今後着手
普及啓発 〔6-(4)〕	◆ インターネット、パンフレット、広報チラシ、シンポジウムによる地域住民、公園利用者及び観光事業者への普及啓発
評価及び見直し 〔7-(1)〕	◆ 植生、シカ、観光の専門家で構成する科学委員会の設置 ◆ 5年をめぐりに総括的な評価・検証を実施
関連計画との連携 〔7-(2)〕	◆ 鳥獣保護管理事業計画(神奈川県) ◆ 第二種特定鳥獣管理計画(神奈川県) ◆ 鳥獣被害防止計画(関係市町村) ◆ 仙石原湿原保全計画書(環境省、神奈川県、箱根町) ◆ 地域管理経営計画(神奈川森林計画区)(関東森林管理局)
実施体制 〔7-(3)〕	◆ 「箱根地域仙石原湿原等におけるシカ対策に係る提言」 ◆ 協議会の設置

国立公園等におけるシカ対策の数値目標の設定について



<第33回自然公園等小委員会(H28.12.26)での指摘>

- 事業の達成度を測るための指標と、目標達成までの段階をあらかじめ設定し、政策を評価すべき。
- 目標について、設定のあり方を検討すべき。

<平成28年度に有識者との意見交換会を実施>

- シカの影響を受けやすい国立公園等では、捕獲数だけにとらわれず、多様性や希少種の保全、生態系サービスの低下防止の観点から目標設定することが重要
- 優先的に保全すべき植物群落を抽出し、防護柵も積極的に活用すべき
- 段階的な目標設定と、モニタリングを欠かさないことが重要
- 具体的な効果の測定指標・方法として、「保全危急性」、「空中写真による生息痕跡の判読」、「下層植生衰退度」等の提案

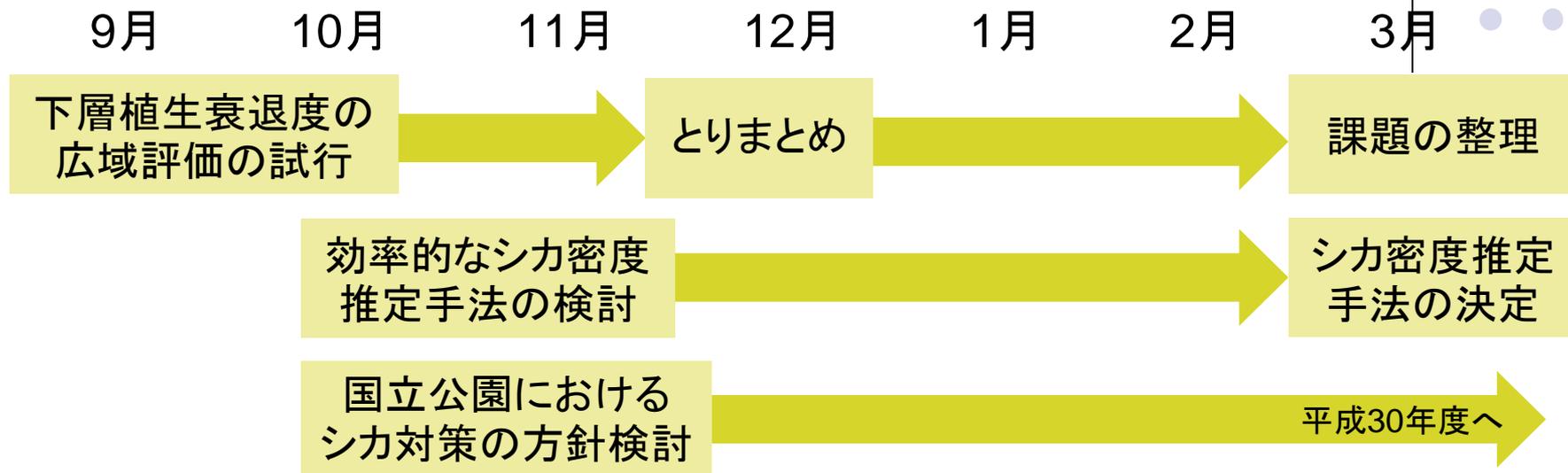


本省国立公園課において、平成29年度中に、保全対象に焦点を当てた国立公園等の標準的なモニタリング手法を検討

国立公園等におけるシカ対策の数値目標の設定に向けた作業スケジュール(案)



<平成29年度>



<平成30年度>

- 平成29年度の成果を踏まえ、生態系維持回復事業計画策定地域等において、指標のベースラインを把握するための調査を実施
 - 国立公園におけるシカ対策の数値目標を設定
- シカの拡大、希少種等の分布状況等を踏まえ、国立公園における優先対策地域を抽出